

IS-LM曲線

傾き		基本 (供給 = 需要)
IS曲線	貯蓄 利子 (投資の利子率感応度)	$YS=YD$ $r \downarrow \rightarrow I \uparrow \rightarrow Y \uparrow$
LM曲線	所得 利子 (貨幣需要の利子率感応度)	$M/P = L$ ↑実質は日銀が一定

参考：熊本学園大学

<http://www2.kumagaku.ac.jp/teacher/~sasayama/macroecon/lecture13.html>

① 投資の利子率弾力性	② 流動性のわな	③ 貨幣需要の利子率弾力性	④ 貨幣需要の所得弾力性
小さい rが動いても、 $Y (=I)$ が変わらない =垂直	貨幣需要の利子率弾力性が無限大 ∞ もう最低限のrのため、 そのrで L_2 が ∞ (=水平) になる	小さい rが動いても、 L が増えない = Y 固定のため、 LM垂直	小さい 所得が減っても、 r は一定 =水平
			